

自然と産業の連携を模索した 創造性の高い地域へ。

豊かな未来のために、
私たちができること。

新しいまちづくりには、自然と住民生活が結びついたアイデアや施策が求められます。「自然」と「ひと」との接点を常にイメージして、雇用促進をはじめとした産業の活性化や教育などの人材育成には、明確なビジョンを持って取り組まなくてはなりません。合併協議会では、新市のまちづくりを考える上で、4つの方向性により議論を進めています。

自然環境・教育方向

1. 自然と文化を大切にし、 未来を創造するまち

水と緑を初めとして、恵まれた自然と共生する取り組みをみんなで考えていきます。自然を保護し、守り育てる意義、地球環境にやさしい取り組みを学校教育、生涯学習の場にも取り入れ、古くから自然の恩恵を受けてきた郷土の歴史を振り返ることにより、この地域の恵まれた環境を再認識するとともに、新しい活力と未来を創造する施策につなげていきます。

●考えられる施策の方向

- ・水と緑を守り、地域の自然と地球の環境を考えるまちづくり
- ・緑のステージで、いきいきとした子供たちと未来を育むまちづくり
- ・歴史と文化を再発見し、新しい情報発信と国際交流を促進するまちづくり
- ・自然と親しむ生涯学習、自然を満喫できる生涯スポーツのまちづくり



産業育成・地域活性化方向

3. 活力と希望を生み、 交流を育むまち

自然の恩恵を産業の活性化に活用します。特に農業は自然と深く関わり、地域の特徴を色濃く反映する産業です。また自然美を活かした観光産業は、グリーンツーリズム時代の到来により、国際的にも脚光を浴びる可能性が指摘されています。各種産業のネットワーク化と人的交流を促進する施策を展開するとともに、産業創設と雇用促進を命題とした、積極的な基盤づくりに取り組みます。

●考えられる施策の方向

- ・農・工・商業の基盤整備とネットワーク化を促進するまちづくり
- ・自然と観光事業を一体的に考え、ツーリズムの拠点となるまちづくり
- ・新しい活力を生みだす産業育成と雇用を促進するまちづくり
- ・農村環境を地域間交流に活用し、活力と定住を生むまちづくり



【新市の 将来像】

自然が活きる、人が 輝く、交流のまち
～自然共生型アメニティ都市を目指して～

新市に萌える四つ葉のビジョン

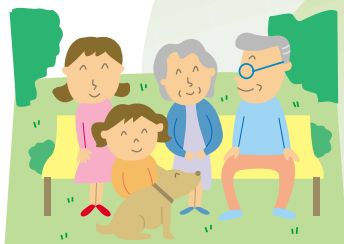
住民生活・都市基盤方向

2. 住む人が安心・快適に暮らせる やさしいまち

水と緑を利用し、市民の憩いの場を設けることにより、健全で豊かな心を育むとともに、自然環境をより意識した都市空間・居住空間の整備など、住む人がゆとりを実感できるような施策につなげていきます。また、健康で安全に暮らせるまちづくりを推進し、福祉・保健・医療対策、防犯・防災対策の充実を図りながら、人にやさしく、元気なまちづくりを行います。

●考えられる施策の方向

- ・自然と共生できる機能的で快適な都市基盤を有するまちづくり
- ・憩いの場や住宅地を水と緑で演出するまちづくり
- ・心のふれあう福祉と子育て支援のまちづくり
- ・元気な家族を応援する保健と医療を推進するまちづくり
- ・防犯・防災に配慮した安全で、安心して暮らせるまちづくり



新行政改革方向

4. 新しい改革にも柔軟に対応できる 行政を推進するまち

合併施行に伴う不安や住民ニーズを的確に捉え、常に時代の要請に応えることのできる行政組織を確立するとともに、新市計画に掲げる目標達成のため、各施策が確実に推進できる体制を整えます。また、地方分権などによる制度改正にも柔軟に対応し、事務の効率化や民間活力の導入など更なる行政改革を推進するとともに、ITを駆使した情報の公開と市民参加型の行政を目指します。

●考えられる施策の方向

- ・新市の計画を推進するための行政基盤を備えたまちづくり
- ・新制度や住民ニーズに対応するため、更なる行政改革を推進するまちづくり
- ・積極的な情報提供と市民参加型（パートナーシップ）行政によるまちづくり

